

アプリのこと

平成29年9月25日発行
つどいの家・アプリ編集
〒982-0816
仙台市太白区山田本町 3-20
TEL 022-743-1882
FAX 022-743-1883



今回の表紙は、クレソングループの岩渕直子さんです。7月の暑い日、ビニールプールに水をはり、足を入れ涼んでいる時に撮った写真です！暑い日にひんやりとした水は気持ちよく、思わず笑顔になりました(*´ω`*)

ひとりごと ～詩人の世界～

突然ですが、私の息子の名前は「朔太郎」といいます。詩人 萩原朔太郎から命名しました。息子に、萩原朔太郎のことをよく知ってほしいという親の願いで、先日、萩原朔太郎ゆかりの地、群馬県前橋市にある前橋文学館へ足を運びました。前橋文学館に到着すると、目の前に広瀬川という川があり、遊歩道が整備されていました。景観も楽しめるスポットです。

さて、文学館を見学した息子は萩原朔太郎の詩の中で、「蛙の死」が一番印象に残ったとのことでした。

「蛙の死」

蛙が殺された 子供がまるくなつて手をあげた みんないつしよに かわゆらしい
血だらけの手をあげた 月が出た 丘の上に人が立つてゐる 帽子の下に顔がある

『月に吠える』より萩原朔太郎

子どもの頃は、ピュアな心を持っていると考えていましたが、人間の奥底には残酷な心があることが垣間見える詩であると萩原朔太郎の世界観を感じました。しかし、これは私の感想で、息子にとってはただ単にインパクトが強かっただけのようです。子どもの頃の感性は、大人の感性とはやはり違うことに気がつきました。

詩人の世界を知ることは、感性を磨くことにもつながります。言葉のコミュニケーションだけではなく、文章を読んだり、故人を知ったりすることも大切なことだと改めて感じました。

(記：大累)

実習生にインタビュー!!!

8月7日にレスパイト実習で来ていた淡路穂香さんに、実際に利用者と関わってみての感想をインタビューしましたので、その一部を紹介したいと思います。



利用者みなさん一人ひとりがとても素直でまっすぐな方々だなと感じます。一緒に過ごしていると笑いが絶えずなくて、あっという間に時間が過ぎます。みなさんのびのびと、楽しそうに活動しているのが印象的です。大学に通っていますが、学校ではできない貴重な経験をさせていただいています。(淡路穂香)

レスパイトサービスとは、「障がいのある人の家族が日々の介護から離れてホッとしたい時や病気などの事情で介護ができない時など、家族に代わって一時的に介護や送迎を行い、リフレッシュを図ってもらう家族支援サービス」のことです。淡路さんのように学生さんの介護人やヘルパーさんも多く活躍しています。

少しでも興味を持たれた方は、ぜひ一度ご連絡いただければと思います(#^^#)♪

(記：佐藤(愛))



25周年記念 全体撮影会を行いました



今年は法人設立25周年記念の年ということで4月から様々なイベントや企画を行っています。そのイベントのひとつとして、8月23日に「つとだよ!!全員集合写真」と題して、沖野東小学校の校庭をお借りし、つといの家の全事業所の利用者・職員が集まり集合写真を撮りました。当日は、降り続けていた雨が嘘のようにお天気にも恵まれ、各事業所それぞれプラカードを作ったり、仮装をしたりと個性をだしていました。法人の全事業所の利用者や職員が集まる機会があまりなかったため、あっという間の時間ではありましたが、「久しぶりだね(#^#)」と笑顔で挨拶を交わしていました。
(記：佐藤(愛))



どでかいアート!



全身、色まみれになってアートをする。よく Color Me Rad、カラーランというようなイベントが行われ、話題を呼んでいます。

今回、アプリでは法人設立25周年記念企画のひとつとして、身体を使ってアートをする「どでかいアート!」を行ないました!アートとなると、どうしても椅子に座り、筆やペンを使って…ということが多くなってしまっていますが、今回の企画では、服が絵の具で汚れてしまうことも、手に絵の具がべっとりついてしまうことも気にせず、全身でアートを楽しみました。絵の具が入った水鉄砲でアートする方、直接絵の具を手で伸ばし、想いを表現する方…。普段なかなかできない活動だったので、大盛り上がり!笑いが絶えず、一人ひとりの笑顔がキラキラ光る一日となりました。これからも、たくさんのおもしろい体験、新たなことへの挑戦をアプリ全体で考えていきたいと思ひます。
(記：榎原)





アプリ保護者から見た仙台市長選挙！！



7月に、仙台市長選挙が行われました。今回の選挙において、アプリ保護者が選挙について感じていることや、選挙や投票方法に対してどのようなことを望んでいるかということなどについてのアンケート調査を行いました。以下はその結果をまとめたものです。

Q.選挙に対して感じること、投票方法に対して望むことはありますか？

- ・選挙権はあるが、本人に説明しても理解してもらえない。障がい重複しているため、本人が選ぶことが難しいと感じている。受付で障がいがあることを伝えると点字を使えるかを聞かれ、使えないことを保護者が伝えると口頭で投票することになった。投票の際、声が大きく周囲の人に聞かれてしまう。仕方がないことだとは感じているが、別室で投票できるようになればと感じている。
- ・本人に分かりやすい政策が必要だと感じた。また、説明する時間が足りなかった。投票所は、一人の人格を認めてもらっているという感じがあり、しっかりと対応してくれていた。
- ・障がい重くとも、権利としてもっている選挙権ですが、自己判断力がない場合は、選挙は難しいし、できないと考えている。
- ・100%の投票率を考えるのであれば、投票に行くのが難しい方々へ特別な配慮（郵送、インターネット投票等）を考えていく必要があると感じた。
- ・投票場所によって、車椅子が通りにくい所があるため、通路を広くとって欲しい。
- ・投票に行ったことがないため、しっかりとした対応、説明等を行ってくれるのか分からない。
- ・投票所内にも立候補者のポスターが貼ってあると好ましいと感じている。名前と顔が一致せず、「名前何だっけ？」と話している姿を見かけた。

Q.期日前投票を利用しましたか？

- ・投票場所まで歩いて行くことが難しいため、利用した。また、先に投票することで安心感が生まれる。
- ・しっかりと本人の意思を聞いて、記名（代筆）したものを本人に確認してから、一緒に投票箱へ入れていた。廊下で見えて、選管の方の対応がとても紳士的に感じた。障がい者の人権をしっかりと認めてもらういい機会ではないかと感じている。
- ・当日に家族みんなで行こうという話になり、利用しなかった。
- ・期日前投票を利用しているが、本人と行くと、投票と関係ない人は一緒に入れられないため、特別な措置があるといいのではないかと感じる。

今回のアンケートを通じて、アプリ保護者が抱えている選挙に対する思いを垣間見ることができました。私たち職員も多くのことを考え、行政に発信していかなければならないと感じました。みなさん、アンケートにご協力頂きありがとうございました。

（記：佐々木）



自閉症について学びを深めよう！



4月よりアスム療育・研修センターの臨床心理士の猪又初恵氏をお招きし、9名の職員が全7回の研修の中で、自閉症の方への支援とアセスメント（分析）の方法を理解し、現場改善を行うことを目的に、利用者のSさんにスポットを当てて研修を行いました。利用者の個性（何ができるか、わかるか）を知り、その結果を基に自立課題を作成しました。それらをSさんに取り組んでもらい、難しかった点やイライラしてしまった場面を分析し、スムーズに課題ができるようになるまでの間に、Sさんについての新しい発見や、より良い伝え方についての学びを得ることができました。その研修結果を、8月1日のアプリの内部研修で発表しました。職員の感想をご紹介します。

自閉症は100人いれば100通りの個性がある。一人ひとり違う個性があるため、個々に合わせた支援が必要だと思いました。見えている行動だけではなく、なぜその行動をしているのか？を考え、支援することを心掛けていきたいと思いました。（介護員：加藤）

今回の発表会で、Sさんのことをより詳しく知ることができました。そして、Sさんには他にもまだ、できることや理解していることがあるのだろうと感じました。私も利用者の表情や声などに気を付けて見ていきたいと思いました。事業所内で話し合い、給食ではどのようなお手伝いができるのかを考えていきたいです。（調理：田野崎）

今回の発表を聞き、今まで自分が見ていた部分はほんの一部であり奥に秘めた部分について見えていなかったと改めて考えさせられました。どうしても問題行動に目が行ってしまいが、その行動一つ一つに意味があり、それを理解することが大切だと感じました。その意味を理解して初めて根拠のある支援に繋げていくことができるのではないかと思います。

最後に私たちは通訳者であり、何通りもの支援があります。一人ひとりの個性と向き合っていくことも根拠のある支援を引き出すことに繋がるのではないかと思います。“支援員×支援力×保護者”保護者との協働で、今後多くの個性を引き出し活かせる支援ができればと強く思います。（看護師：菊地）

経験からだけではなく根拠がある情報を基に支援をすることで、今までとは違う新たな視点や、関わりのヒントを得ることができました。ここからがスタートだと強く感じています。（記：小原）





うみの杜水族館に行ってきました



7月27日にミントグループの板垣有吏子さんと高橋桃子さんが仙台うみの杜水族館に行ってきました！館内のにぎやかな雰囲気ワクワクしながら進んでいくと、大きな水槽の前に到着。ゆらゆらと揺れる水面や、大小さまざまな魚たちの泳ぎを食い入るように見つめて夢中な二人でした。館内散策後はイルカ・アシカショーへ！イルカの大ジャンプで歓声があがると少し驚いた表情になっていた二人でしたが、その後はイルカたちのパフォーマンスを見守っているようでした。また、前列のお客さんが見やすいように移動してくださったり「楽しみだね」など話しかけてくださったりと、地域の方々の温かさを感じる場面がたくさんありました。短い時間の中で二人のいろいろな表情を見ることができた1日でした♪ (記：坂本)



～拝啓 庄司航さま～

あの日、二本の飛行機雲と一緒に航さんが永遠の旅を始めてから一年が過ぎました。

改めまして航さん、お元気ですか。アプリのみなさんは、それぞれの想いを抱きながら日々を刻み続けています。そして航さんも、変わらぬあの瞳で澄みきった空を追い続けているんでしょうね。

僕はこの間、航さんが愛聴していた荒井由実さんの「ひこうき雲」を改めて聴き直してみました。今まで世界中の色々な音楽を聴いてきて、この曲も知っていたつもりでしたが、音楽とのこういう出逢い方もあるのですね。航さんから教わったことがまた一つ増えました。

雨と霧に包まれた今年の夏。隣国ではミサイル実験が繰り返され、大国では人種差別の歴史が再燃し、国内では平和憲法が書き換えられようとしています。敬虔なクリスチャンでもあった航さん。このような世界を今どのように考えていますか。

話は尽きませんが、航さんの旅路に幸多きことを祈りつつ、今日はこの辺で失礼したいと思います。航さん、また話をしましょうね。 (記：高橋)

*編集後記*今年度から会報担当になりました佐々木です。今年の夏は雨続きで、気分が落ち込んだ方、体調を崩された方も多いのではないのでしょうか？仙台では、1934年の35日間連続降雨を塗り替え、36日と実に83年ぶりの記録更新だそうです。最近では、空気が冷たく肌寒くなってきました。みなさま、どうか体調にお気をつけてお過ごしください。 (記：佐々木)